



幸樹

こう じゅ

第 51 号

2019 年 6 月 1 日



ホームページ



職員募集

発行・一般社団法人幸樹会「幸樹」編集委員会

.....幸樹会事業所.....

からたち薬局・介護ショップからたち ☎047-710-2785

あんず訪問看護ステーション ☎047-701-5559

あんず居宅介護支援事業所 ☎047-701-5558

ケアステーションゆず ☎047-701-5506

看護小規模多機能型居宅介護さんしょう ☎047-710-0331

幸樹会本部 ☎047-701-7550

〒270-2254 千葉県松戸市河原塚 411-1 幸樹会館



「鴨と亀」 絵・井上 忠司 愛知県生れ。文化学院デザイン科卒業後、グラフィックデザインの世界へ。食品関係・洗剤関係の仕事を経てパッケージのアートディレクター（AD）になる。リタイア後に趣味で始めたバードウォッチングの魅力に夢中になり、10年間鳥の絵を描いてきました。さんしょうのご利用者です。

第 21 回地域交流カフェ / 6月18日(火)

時間: 12時(食事会)から、場所: さんしょうリビング

●「人形劇団さてにな」による『幸福な王子』上演

●職員手話部 ☞「手話コーラス」、つばめクイズ

参加費無料 どなたでも参加できます。ぜひおいでください!



『第3回在宅看取りを語り、考える会』 ◆勇美財団助成企画◆

7月2日(火)14:00~16:00、あつまーれ幸樹

お話: 小菅紀子氏(健和会訪問看護ステーション統括所長) 参加費無料、どなたでも参加できます。

「娘のように大事に見守って…」

妻カヨ子さんを送る大岡甫さんの追悼文を紹介します

看護小規模多機能型居宅介護さんしょうの空気を、やわらかな可愛らしい雰囲気でごやかにしてきた大岡カヨ子さんが5月20日にお亡くなりました。享年81歳。心からお悔やみ申し上げます。

カヨ子さんの最後の日々の傍で、いつも夫の大岡甫さん（85歳）がおだやかに見守り続けていました。その甫さんからカヨ子さんを送る追悼の文が届きましたので、ご紹介させていただきます。

家内カヨ子は、昭和12年、東京巢鴨地蔵通りの家具骨董商の家に生まれました。地元の十文字高校を卒業後、三井物産に勤務していた伯母の紹介で、財閥解体後に三井物産の食糧部門が独立した商社東京食品に就職しました。私も同年春に東大法学部を出て同じ食品商社に勤めることになりました。私は11歳の時に父親を亡くしたため、母が小料理屋をやりながら4人の子供を育ててくれました。私はピアノが好きで中学・高校と習っていて音楽学校に進むのが夢でしたが、家の状況では無理でした。ピアノの先生から、「君なら頑張れば東大に行ける」と言われて、睡眠2～3時間の猛勉強をして東京大学法学部に合格しました。卒業後は、人の争いごとに関わるような弁護士はしたくないと思ったので、最初に採用通知が来た東京食品に就職したのです。つまり、私と家内は同じ会社の同期生だったわけです。私は監査部、家内は経理部でした。

初めて家内を見たとき「かわいい人だな！」と思っていました。よく同期生が10人位集まって食事に行ったりしていましたが、夜遅くなると私は女性2～3人をタクシーで送っておりました。ある日、家内を自宅まで送って行った折、父親から、「まあ、上がって行け。一杯呑もうじゃないか」と言われて、親兄弟と離れて一人暮らしをしていた私は、遠慮なくご馳走をいただきました。そんなことが何回か続いたある日、父親から、「娘を貰ってくれないか」と言われ、家内も私に好意を持っていたので、昭和33年に結婚に至りました。

私は仕事で忙しく関西に2年ほど単身赴任したり全国各地に出張したりしていたため、家内は結婚後も両親・兄・姉・弟と6人の実家暮らしで、私が時々家内の許に帰るといような暮らしをしておりました。昭和43年に当時憧れだった船橋の公団分譲住宅に当選、その後二十世紀が丘美野里町・丸山町に2軒の家を建て、それを処分したあと萩町の現住居に住むようにな



大岡甫さん

りました。昭和61年頃からバブル景気となって借入金の負担も軽くなり土地価格も急上昇したため、私は家の建設や処分、住替えができたのでした。植木や草

花の好きな私は、家内とともに、庭の手入れをすることが楽しみでした。

温泉旅行に行ったり、趣味の手芸・編み物・ゴルフ等を楽しませたりして、子どもに恵まれなかった私は、家内をわが娘のように大事にして参りました。

家内は幼い頃から心臓が悪く、平成元年に東大病院で心房中隔欠損（ASD）と診断され、入院手術を受けました。永い間私が付き添って東大病院に通っておりましたが、5年ほど前の春頃から、足が不自由になり、就寝後も亡き親兄弟の名を呼び、幻覚を見たりするようになって、家事もできなくなったため、室内の歩行・階段の昇降・入浴・排便などの世話や炊事・掃除・洗濯・日常の買い物など家事一切、私が一人でやっておりました。家内は、一昨年神経内科で診てもらったところ、「レビー小体型認知症」との診断を受けました。

そんなつらい日々が続いていた頃、知人から介護制度を利用してみたらどうかとの勧めを受け、介護認定申請をいたしました。最初の認定は要介護1でしたが、山本弘美ケアマネジャーから介護度が低いのではとのお話があり、再申請をしたところ、要介護2となり、平成29年11月からは、さんしょうの通いや泊りを繰り返し利用するようになりました。



カヨ子さんの手芸作品

平成29年12月21日、私は転院のための紹介状を書いてもらうために車で東大病院に行き、帰る途中、腰の骨がギクッと音を立てて折れた感じがしましたが、そのまま半失神状態で車を運転して帰宅し、玄関先でバツリ倒れてしまい、家内の横で失神しておりました。翌朝、家内を迎えに来てくださったさんしょうの岡本健吾さんに発見されて、救急車を呼んだり、弟妹に連絡を取っていただきました。家内は千葉西総合病院、私は新東京病院に搬送され骨盤4カ所裂傷との診断を受け、平成30年3月まで入院しておりました。家内は半月ほどで退院、さんしょうの泊りでお世話になっており



浴衣姿の人岡カヨ子さん（昨年の夏まつり）

ましたが、3月中旬に肺炎の疑いで三和病院に入院。状態が悪いとの連絡を受けた私は急遽退院して杖をつきながら三和病院にいました。斉藤丈夫医師にお目にかかったところ、いきなり「延命治療を望むか？」とのお尋ねがあったので、「ああ家内の命もあと幾許もないのか」と感じました。それでも家内は1月あまりで三和病院を退院し自宅へ戻って参りました。

その後1年近くさんしょうへの通いや泊りを繰り返しておりましたが、平成31年2月に約1か月再び三和病院に入院、退院後の3月27日から今日まで、さんしょうでお世話になっていました。私は少しの間でも傍にいてやれればと思って、毎日病床に通っていましたが、家内は去る5月20日0時10分、さんしょうの病床で安らかに永眠いたしました。

家内と出会い結婚して良かった。“猛烈サラリーマン”だった私は、家内に寂しい思いをさせた分、娘のよう大事にしてきました。家内は私に頼り切っていたし、最後まで見てあげられて良かったと思っています。

ツバメさんだより

新築物件完成！

今年も幸樹会館にツバメが来訪。1年目の一昨年は職員玄関の排気口の上に。昨年はからたち薬局の入り口に。そして今年とは反対側のからたち薬局入り口と、プロティーのスロープ真上（写真）の二カ所に“新築”の巣が完成です。薬局入り口は三和病院玄関からもよく見えるので多くの方の目を楽させています。スロープ上は小さな虫がたくさんいるので、当初は餌を探しに飛んで来たのだらうと思っていました。そのうちに床に“落とし物”がたくさん見られるようになり、上を見上げてみると何やら壁面に茶色いものがベタベタとついていました。屋根があつて風もあたらず、餌になる虫もいるので最高の場所です。でも壁面に作るのはとても大変そう…。しかし、ツバメは一級建築士でした。難なく完成。さんしょうの利用者さんたちも下を通る度に巣の様子を伺い、楽しそうに過ごされています。ツバメの成長を見守りながら過ごすのはとても楽しみです。今年も元気いっぱい巣立ってくださいね。

（浅尾いずみ）



運動部だより トレイルラン完走！

5/12、東京都青梅市で開かれた新緑の山道を駆ける成木の森トレイルラン（20 km）に、あんず居宅の岡本健吾さんと私（加藤義幸）が参加してきました（写真）。私がスタートから出遅れつつ12:25

に山頂の折返し地点に到着すると、運営の“おばちゃん”から「後はタイアしようとしまいと来た道を自力で戻るしかないですよ」とありがたく無慈悲な宣告。しかし、折返し地点以降は下り道が多く気持ちよく山を駆け巡ることが出来ました。岡本さんに遅れること30分後の13:30にゴールできました。（加藤義幸）

薬剤師

の

こころ

からたち薬局・薬剤師主任 井上由紀子

皆さんは、薬を飲む時間を意識されたことはありますか？薬局で受け取った薬の袋には、食後、食前、食間など薬の服用時間や数量が書いてあります。決められた時間、数量を服用しなければ、薬の十分な効果が得られないばかりでなく、副作用も出やすくなります。正しい服用時間を理解して、指示されたとおりに服用することが効果的な治療に大切ですが、主な服用時間について記載しましたので参考にして下さい。

正しい薬の飲み方で効果的な治療を

＜食後＞最も一般的な服用時間で食後およそ30分以内に服用します。胃の中に食べ物が残っているため、胃への負担を少なくしたい薬や消化吸収を助ける薬などは食後に服用します。又、食後服用する習慣により飲み忘れを防ぐ目的でも食後に服用します。



＜食前＞食事のおよそ30分前に服用します。胃に食べ物が入っていない方が吸収の良い薬、食欲増進を目的にしている薬や吐き気を抑える薬などは食前に服用します。

＜食間＞食後およそ2時間後に服用します。又、次の食事までおよそ1時間以上空いている時間です。胃に食べ物があることで、吸収が悪くなってしまう薬や、胃の粘膜を保護する薬などは食間に服用します。

＜食直後＞食後およそ5分以内に服用します。薬の吸収に、胃酸や胆汁酸が必要な場合があります。このような薬は胃酸や胆汁酸の分泌がさかんな食直後に服用します。

＜食直前＞食事のすぐ前およそ5分以内に服用します（いただきますと同時に）。糖尿病薬で糖の吸収を抑えて急激な血糖上昇を抑えるものや、血糖を下げる効果がすぐに現れるものは食直前に服用します。これらの薬は食後に服用しても効果が期待できなかったり、食前服用では低血糖を起こしてしまいます。

薬によっては服用時間を変更しても差し支えない場合もあるので、服用しづらい時には医師又は薬剤師へご相談下さい。



デンマーク便り...⑪

ラスムッセン 京子

デンマークはこの 10 年間で病院の大規模化を進め総合病院にし、地方の小規模病院を閉鎖してきました。そして 24 の大病院を全国に配して診断治療の一貫した医療提供をめざしました。併せて保健医療の管理責任をもっていた県を大統合しレギオン（行政圏域）をつくりました。

一般医（家庭医）の診療が終わった後の夕方夜間に、事故や救急搬送以外で診療を望む場合は、「1813」という電話センターに電話してどの病院に振り分けられるか聞いてその病院に入院の準備をして出かけます。ところがこの大病院に出かけると流石に患者が多く、当直医師も多いのですが長い待ち時間を我慢するしかない状況があります。一応看護師が症状を聞き緊急性を検討したうえで優先順位を決め医師事務室の掲示板に色別で患者を振り分けて表示、医師が一番緊急性のある患者の診察室へ向かいます。患者が 5～16 時間待たされるというケースも珍しくありません。

夜間診療の待ち時間、どうする!?

夕方から翌朝の 18 時間の当直中、医師は 15～20 人の患者を問診、診察、検査依頼書、血液検査とやり、仮の診断をして、次に治療



を始める医師が画像診断や血液検査などをもとに診断を下して治療することに繋がっていきます。症状が軽い患者ほど長い待ち時間となるので不満は募ります。

実際に誰もが大病院の夜間救急に出かける必要はないわけですが、電話による問診だけでは正確な判断が出来ないので、多数が病院へ振り分けられます。

不合理な話ですが、経験豊かな一般医医師会とレギオンとの夜間診療費用・医師への報酬支払いの交渉で和解が得られず決裂し、「1813」が導入されました。大病院への集中は、“長い待ち時間、遠い総合病院”という国民の期待と裏腹な現実を生み出す結果となっています。現在では近い診療所、入院病棟がなくても地域の住民が行って診察してもらえる近くで待ち時間の短い診療所の必要性を 2 大政党が主張しました。今までの流れと逆行する動きです。果たして国民の信頼を得られるのはどの政党でしょうか。

防災訓練・安全運転講習を実施

5 月 21 日、大雨の中、幸樹会では予定されていた防災訓練が行われました。改修工事で排水機能が良くなりましたが、この周辺では春木川が増水し床上まで水が上がったことがあるため、雨には注意が必要です。

訓練では、駐車場の車を高台に避難、訪問に出ている職員と訪問先の利用者さんの安否確認、建物の入り口に水避けのシートを貼り



(写真)、土嚢を積む、冠水危険箇所を避けて通行し、高台で待機する。幸樹会館 1 階のからたち薬局の患者さんを二階に避難誘導。さんしょうの利用者さんも帰宅を見合わせていただく等々。外は大雨なので、職員もずぶ濡れになりながら本番さながらの訓練になりました。訓練をすると、机上では分からない課題が沢山出てきました。これからも安心してご利用いただけるよう、計画・訓練していきます。

5 月 29 日は、「東京海上日動火災」の方に来ていただき、安全運転講習会を開きました。「道義的責任」「刑事責任」「行政責任」「民事責任」の事故に伴う 4 つの責任や、道路交通法での規定義務を学び、事故防止の重要性を再確認しました。「焦り」や「いら立ち」が交通事故の原因の約半数を占めているということで、自分の焦りやいら立ちの傾向をセルフチェックしてみました。信号のある交差点の右左折や駐車場内が事故が置きやすい場所、安全行動のポイントを確認しました。また、自転車も軽車両であるという認識で乗ることや交通ルールを学びました。

八柱学習会

●前回報告 5 月 17 日（金）。助言者 武井幸穂氏「ユマニチュード」 講師：石黒秀喜さん（NPO 地域ケア政策ネットワーク事務局長代理・元厚生労働省介護保険指導室長）

参加者 16 人。「あなたのことを私は大切に思っています」という人間尊重のメッセージを常に発信する「ユマニチュード」の理念と技法を分かりやすくお話していただきました。「ICF（国際生活機能分類）」「パーソン・センタード・ケア」についてのこれまでの勉強とあわせ、現場の実践的ケアに役立たせていきたい話でした。

▼次回学習会予定（「定例日：毎月第 3 金曜日」）

●6 月 21 日（金）、18：30～

『NHKスペシャル・「認知症革命」第 2 回-最後までその人らしく』を視聴

場所：幸樹会館 2 階会議室《参加自由》

職員募集！ 非営利・働きがいある職場
看護師・介護職員

●無資格の方もご相談を。資格取得支援制度あり
問い合わせ：本部中野まで、☎047-701-7550

今月の屋上太陽光発電量は、

799KW



幸樹会館電力使用量 4260KW 自給率 18.76%